



タイで有名なこの物語は日本の羽衣伝説にとっても似ているお話です。  
ヒロインのマノーラーは人間の姿はしていますが、  
羽と尾をもつ神でもない人間でもないキンナリー族です。  
その美しさは目を見張るばかりで、このキンナリーの姫に恋をした王子が  
幾多の試練を乗り越えてマノーラーをとりもどす、  
そんな物語を講談師の軽快な語りとともに美しい舞踊劇に仕上げました。  
ぜひタイの舞踊劇の世界を一度ごらんください。

# タイ 舞踊劇 ストーン王子とマノーラー

時間: 2009年4月18日(土) 16:30開場 17:00開演

場所: 世界館

〒577-0001大阪市港区波除6-5-15

Tel: 06-6567-9824

URL: <http://www.theater-sekaikan.com>

出演: ラーチャモンコン工科大学タンヤブリー校芸術学部舞踊団/  
タイ音楽合奏団スリヤサンキート

講談師: 天神堂梅豊

制作: ナータリラー・タイカルチャーセンター/スリヤサンキート

チケット: 2,000円(当日券のみ)

主催: ナータリラー・タイカルチャーセンター

共催: 船場アートカフェ(大阪市立大学都市研究プラザ)/  
タイ王国大阪総領事館

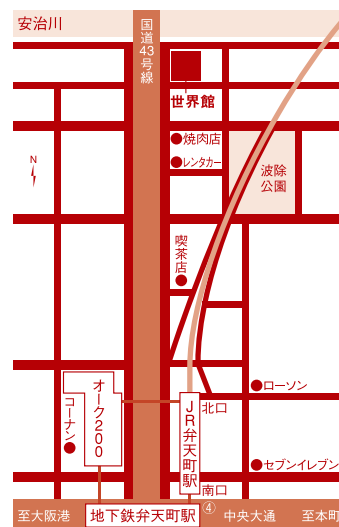
協賛: 国際交流の会とよなか(TIFA)

協力: 特定非営利活動法人日タイ国際交流推進機構(JTIRO)/

特定非営利活動法人シニア自然大学/日タイ教育交流協会/日本タイクラブ

お問合せ先: 舞踊劇「ストーン王子とマノーラー」実行委員会

Tel: 090-7760-6743 E-mail: [aki13@wa2.so-net.ne.jp](mailto:aki13@wa2.so-net.ne.jp)



JR大阪環状線「弁天町」駅下車 北口から徒歩約7分  
地下鉄中央線「弁天町」駅下車 ④番出口から徒歩約8分

# タイ 舞踊劇

ストーン王子とマノーラー

## Program

### 第一部

□序曲演奏：ホンローンアヤレト

□タイ舞踊劇「ストーン王子とマノーラー」

タイで最も有名な古典文学の一つ、「ストーン王子とマノーラー」の物語を、舞踊劇で演じます。舞踊劇とは、タイの古典的な演劇形式で、バレエのように、舞踊が物語進行の中心となる演劇形式です。舞踊を支えるのはポリフォニックなタイ古典音楽です。木琴や環状ゴング、そして笛が奏でる重層的なメロディーが生き生きとした太鼓のリズムによって一つのイメージとなって、舞台空間をぐっと引き締めてくれます。また、今回の舞台の特徴として、日本の講談芸能とのコラボレーションをあげることができます。特に日本の聴衆の方々に、タイで最も有名なこの物語をもっとよく知っていただきたいという思いから、語りは日本語で、しかも語りそのものがパフォーマンスとして成立している形を選びたいと考えたからです。講談の形式は、まるで紙芝居のように展開するこの舞台の構成にとってもよくマッチしていて、物語の進行を支えるもう一つの重要な鍵となっています。

「ストーン王子とマノーラー」はジャータカとよばれる仏教文学で、仏陀の前世のひとつのかたちを描いています。ストーン王子となってこの世に降り立った仏陀が、半人半鳥のキンナリーの姫、マノーラーと結ばれるも、戦争で国を留守にしている間に、マノーラーは生け贄となつてとらえられそうになる。しかし、マノーラーは自らの機知によってその危機を乗り越え、故国に戻るのですが、それを知った王子はキンナリーの国へ、長い苦難の旅へでかけます。キンナリーの住むクライラト山で再会を果たした二人は、また結ばれるのでした。

キンナリーの住むクライラト山への旅のなかで、ストーン王子は人間界の常識を超える様々な事象と対峙します。山の麓に広がるヒマバーンの森には、キンナリーのような幻想的で不可思議な生き物が数多く住んでいます。これらは、アジアのひとつの想像力が生み出した美しい幻想の世界であり、そうした世界観を聴衆の方々にも楽しんでいただけるような仕組みを用意しています。



### 第二部

□序曲演奏：ヤワー(アンカルン楽団)

□シーパーク(タイ四地方の舞踊)

第二部のシーパークとは、4つの地方という意味です。タイには文化・地理上の地方区分があります。タイの首都を含む中央部、チェンマイを中心とした北部、ラオスとの文化的類似性の強いイサーン(東北)地方、そして、タイの海で東西を囲まれた半島部の南部の4地方に分けられています。それぞれの地方には独特の芸能文化があり、その文化は今もタイの伝統芸能家の間で受け継がれるとともに、その文化的な背景をうまく利用した新しい創作も行われています。今回ご紹介する舞踊曲の中には、古くから伝わるノーラーのようなものとともに、ラーチャモンコン大学による新作舞踊チュムサリーインディートウアイのような曲も含まれています。

- 1 「チュムサリーインディートウアイ」〈北タイ〉
- 2 「ノーラー」〈南タイ〉
- 3 「スーン・イエーカイモッデー」〈イサーン(東北タイ)〉
- 4 「トゥットゥーン」〈中央タイ〉

### 関連イベント開催

## タイ舞踊 ワークショップ

要申込み 先着20名様 参加費無料

時間：2009年4月14日(火) 19:00～

場所：船場アートカフェ

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町3-2-15  
三休橋エクセルビル北館B1F

講師：ラーチャモンコン工科大学芸術学部教員

主催：船場アートカフェ

協力：スリヤサンキート

お申込み・お問合せ先：船場アートカフェ

E-mail若しくはFaxにてお申込み下さい。

お申込みは先着順受付、定員になり次第締め切りとさせていただきます。

Tel & Fax: 06-4308-4900

E-mail: art-cafe@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

URL: http://art-cafe.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

(電話は留守番電話になっておりますので、ご用件と連絡先をご伝言下さい。追ってご連絡させていただきます。)

船場アートカフェは、大阪市立大学・都市研究プラザが都心で展開する研究・実践の試みです。

